

2009 - 3

活動名	ゆかた・帯の寄付のお願い
要旨	市のアンテナ職員制度より事業化された活動。浴衣の寄付を募り、夏祭りで認知症高齢者に着てもらうことで、昔の楽しい記憶をひき出し、精神的安定に役立てる「回想法」の効果を目指して実施。「若返った」と笑顔で思い出を語り合う姿がみられた。
応募者	浦安市健康福祉部介護保険課給付係 藤平 孝行
連絡先	〒279-8501 千葉県浦安市猫実 1-1-1

1. 概要

浦安市では、先進的・ユニークな取り組みをしている国内外の自治体、民間企業、各種団体などから、本市に有益な情報を収集・研究活動を行う「アンテナ職員制度」を平成19年度より実施しております。この制度は、市職員が収集した情報を、最初に市長が目を通し、事業化検討などの指示を直接出すことが特徴となっており、平成21年8月末日現在までに121件の提案があり、13件が事業化されています。

その「アンテナ職員」からの提案により事業化された事業の一つが、「ゆかた・帯の寄付のお願い」です。

この事業は、市内の特別養護老人ホームやグループホーム等の介護施設に入所している認知症高齢者等の方々に、地域や施設で開催される夏祭り等で着ていただくための浴衣や帯の寄付を募り、施設に贈呈することにより、浴衣を着て夏祭りに出かけた懐かしい・楽しい記憶を思い出し、ご入所者の皆さんで思い出話を互いに語り合い、共感し合うことで脳を活性化し、認知症状の緩和や精神的安定に役立てるという「回想法」による効果を期待した取り組みです。

提案のきっかけは、施設訪問を行うなかで、認知症状の重度化により会話も少なく無表情で椅子に腰掛けられているご入所者の方々を見て、「笑って欲しい」と思ったことが始まりです。

昔懐かしい・楽しい思い出話をするときには、誰しものが自然と笑顔になり、記憶をたぐり寄せながら話をすると思います。浴衣には、花火大会や盆踊り大会などの懐かしい、楽しい「思い出」が詰まっているのではと考えたと同時に、私たちのなかでは、夏に浴衣を着て夏祭りに出掛けるという当たり前にある機会を、施設に入所する皆さんにも、「日本の夏の風物詩」として味わっていただきたいとの思いで提案したところ、事業化されたものです。

「回想法」は、1960年代にアメリカの精神科医ロバート・バトラー氏により提唱され、昔の記憶を、会話などを用いて脳に再度蘇らせ、自分の人生を振り返り、満足感や充実感を得ることで、精神的安定を図りQOLの向上に繋げるといふ、特に高齢者向けの精神療法として実施されております。

他市では、大正時代に建てられた建築物を「回想法センター」としてオープンし、回想法のノウハウをもつリーダー等がサポートしながら、高齢者が設定されるテーマをもとに思い出話を語り合うなど、回想法による取り組みは、全国各地で実施されております。

浦安市で実施しました浴衣に限らず、懐かしい生活用品やおもちゃ、古い建築物や昔よく聴いた音楽といった、ちょっと探せば意外に身近にあるもので思い出話を語りあうことなどができると考えております。



寄付された浴衣の一部

2. 地域の紹介



東京湾の奥部に位置し、三方を海と川に囲まれた浦安は、かつては漁業の町として栄えておりましたが、1962年漁業権の一部放棄、1964年に海面埋め立て事業が始まると浦安は大きな変ぼうを遂げていき、1971年漁業権全面放棄、第2期海面埋め立て事業が行われた結果、東西6.06キロメートル、南北6.23キロメートルで、総面積はかつての約4倍の16.98平方キロメートルとなり、急速な都

市化が進んだ街です。

1981年、千葉県下27番目の市として「浦安市」が誕生。当時の人口は6万5,662人でしたが、更なる交通網等の発達に伴い、住宅地やアーバンリゾートとしての人気も高まり、東京ベイエリアを代表する都市として発展を続けています。

平成21年4月1日現在の人口は、162,944人、そのうち65歳以上の人口は、18,000人、高齢化率11.05%となっており、浦安市は、全国でも有数の若い街として知られております。

「浦安市の人口及び世帯数」

平成21年4月1日現在

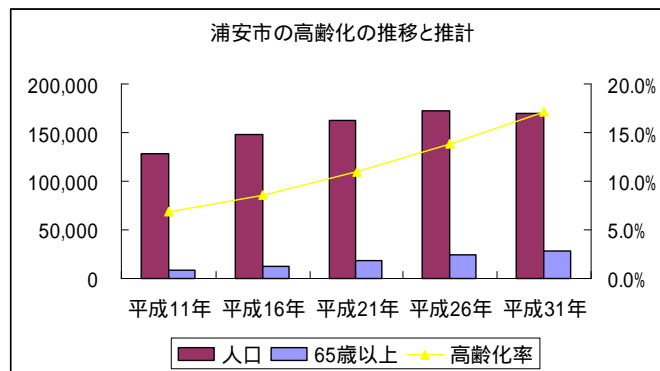
	住民基本台帳
人口	162,944
男	81,676
女	81,268
世帯数	72,368

「浦安市高齢者人口・高齢化率」

平成21年4月1日現在

	男	女	計	高齢化率
60歳以上	13,073	14,224	27,297	16.75%
65歳以上	8,368	9,632	18,000	11.05%
75歳以上	2,423	3,909	6,332	3.89%

しかしながら、海面埋め立て事業により急激に進められた住宅開発の結果、およそ25年後には、65歳以上の人口が約40,000人となることが想定され、高齢化率も35%を超えるなど、急速に超高齢化社会を迎えることが予測されます。



【市内入所・入居型施設の状況】

浦安市には、特別養護老人ホームなどの13の入所・入居型の施設があり、定員総数は、およそ1,000名となっております。

種別		施設名称	定員
特別養護老人ホーム	1	浦安市特別養護老人ホーム	100
	2	浦安愛光園	66
老人保健施設	3	浦安ベテルホーム	100
有料老人ホーム	4	舞浜倶楽部富士見サンヴァー口	79
	5	舞浜倶楽部新浦安フォーラム	81
	6	コミュニケア24 浦安きたさかえ館	40
	7	グッドタイムリビング新浦安	82
	8	浦安エデンの園	324
ケアハウス	9	浦安市ケアハウス	50
グループホーム	10	コミュニケア24 浦安いまがわ館	18
	11	コミュニケア24 癒しの浦安ふじみ館	18
小規模多機能型居宅介護	12	小規模多機能型施設きはち	25
	13	小規模多機能きらら北栄	18

【浦安市で行われる夏祭り】

浦安市では、毎年「納涼花火大会」「納涼盆踊り大会」が開催されており、浦安の夏の風物詩として定着しております。この他にも4年に1度「浦安三社祭」開催され、大小合わせて100基以上の神輿が街へ繰り出すなど、夏祭りに関する郷土愛の深いまちです。



< 浦安市納涼盆踊り大会 >

自治会ごとに開催される盆踊り大会や夏祭りのほか、昭和48年より「浦安市自治会連合会」が主催する「浦安市納涼盆踊り大会」が毎年8月15・16日に開催されます。

< 浦安市納涼花火大会 >

毎年7月最後の土曜日に開催され、約6,500発もの花火が浦安の夏の夜空を彩ります。主催は市内の団体や企業等からなる「浦安市ふるさとづくり推進協議会」で、今年で31回目を迎えております。



< 浦安三社祭 >

4年ごとに、6月の中旬に開催されます。大祭で担ぐ大神輿は3つの神社に5基あり、大祭当日は、大神輿に加え各町会からも神輿や山車が繰り出す一大イベントとなります。

3. 活動の内容

「ゆかた・帯の寄付のお願い」につきましては、「アンテナ職員」の提案により、本年度より実施し、多くの方々からの寄付を受け、8月12日に「浴衣の贈呈式」を行っております。

贈呈式当日は、松崎秀樹市長より「小規模多機能型施設きはち」「デイサービスはじめ」「コミュニケア 24 癒しの浦安ふじみ館」の3施設に対し、浴衣と帯計68組を直接贈呈しました。

早速、浴衣の袖を通されたご入所者の方は、「娘時代の自分を思い出します。帰ったら故郷にいる妹に電話しなきゃ」と喜ばれており、また、「昔は使わなくなった浴衣を子供のオムツに使っていたのよ。」と思い出話を話してくれる方もいらっしゃいました。



浴衣は、お一人5・6枚もの単位でご寄付をいただけることが多くあります。

中には「亡くなった母は踊りが大好きで、仕立てた浴衣が何枚もあります。形見として箆笥にしまって置いたのですが、認知症の方々のためになるのであれば、母もきっと喜ぶと思います。」とご寄付くださる方もいらっしゃいますし、浴衣や帯といっしょにお手紙を添えてくださる方も多くいらっしゃいました。

皆さん、浴衣の一枚一枚にたくさんの思い出が詰まっており、捨てられなかった浴衣や帯を、お役に立てるならと寄付して下さっており、この事業は、そんな多くの方々の優しさがあってこそ実施することのできる事業だと実感しております。

【浴衣贈呈までのスケジュール】

- 7月 3日 アンテナ職員の提案
- 7月27日 市ホームページ掲載
- 7月29日 大江戸温泉浦安万華郷より寄付受納
浴衣：200枚
- 7月30日 第1号個人からの寄付受納
以後、続々と受納
- 8月 3日 プレスリリース
- 8月12日 浴衣贈呈式
- 8月15日 市広報掲載



上3枚の写真は浴衣贈呈式での様子

4. 活動の成果と今後の発展

7月27日より市ホームページに掲載し、「ゆかた・帯の寄付」について呼びかけを行いましたところ、市内にあります温泉施設「大江戸温泉浦安万華郷」より、浴衣200枚のご寄付をいただいております。また、報道関係で取り上げられた影響もあり、市民の方々に限らず、東京・神奈川・埼玉などの各地の方々からもご寄付いただき、8月末日現在、合計浴衣400枚・帯100本の寄付がされております。

多くの方々からの寄付を受け、本年度は「地域密着型サービス事業所」を中心に、7施設160組の浴衣を贈呈しております。

浴衣の贈呈を受けた施設では、早速「夕涼み会」を実施し、ご入所者の方々にお風呂上りに贈呈された浴衣を着ていただき、「流しそうめん」を行う等の取り組みが行われております。ご入所者の方々も「若返ったよう」と新たな「浦安の夏の風物詩」として楽しんでいただいております。

今後も引き続き、浦安市では市内の介護施設の定員数に匹敵する1,000組を目指し寄付の呼びかけを行い、集まり次第、順番に施設へ贈呈していきます。



写真は浴衣贈呈後開催された「夕涼み会」での流しそうめんの様子

【今後の取り組み】

「回想法」の効果が期待できる取り組みは、「浴衣」によるものだけではありません。生活用品やおもちゃ、建築物に音楽といった、身近にある懐かしさを感じるものでもできると考えております。

浦安市では、市内で「地域密着型サービス」を行う事業者が、意見交換、事業者間にむ

らのない質の高いサービス提供、不正行為の抑制を図ることを目的に、「浦安市地域密着型サービス事業者連絡会」を設立しております。

この地域密着型サービス事業者連絡会において、全ての地域密着型サービス事業所に入所する方々を対象に「合同音楽鑑賞会」を本年度11月に実施する計画を立てています。

「合同音楽鑑賞会」では、昔よく耳にした懐かしい音楽を、市内にあります「東京学館浦安高等学校吹奏学部」の皆さんに演奏いただき、皆さんで合唱することにより、「浴衣」と同様の「回想法」による効果を期待しております。

また、当日演奏いただきます「東京学館浦安高等学校吹奏学部」の皆さんには、事前に「認知症サポーター養成講座」を受講いただき、認知症に関する正しい理解と知識、関わり方について知っていただき、当日は、認知症支援者の目印でありますオレンジリングを身に付け演奏していただくこととなっております。

このような浦安市で行っている取り組みにご理解いただき、ご入所の皆さまに少しでもお役に立ち、「ゆかた・帯の寄付のお願い」の事業提案のきっかけでもありました「笑顔」や「思い出話を語り合う姿」が、多くの施設に広がっていけばと期待しております。

